

PV・BEV・蓄電池・負荷設備をリソースとしたEMSの開発 ～EMSによりカーボンニュートラルに貢献します～

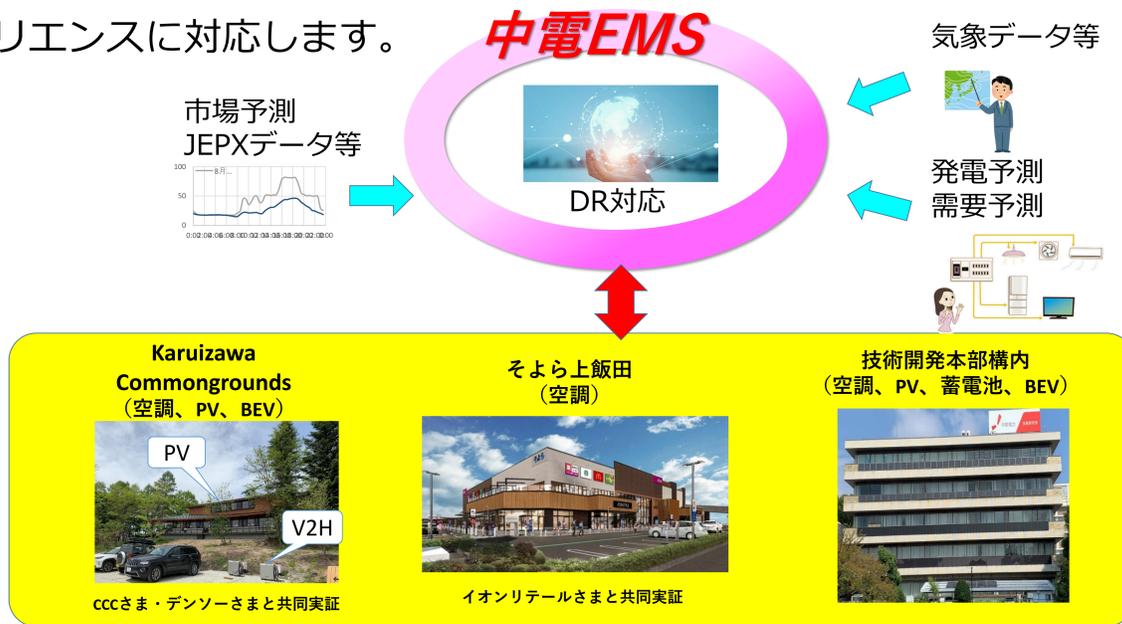
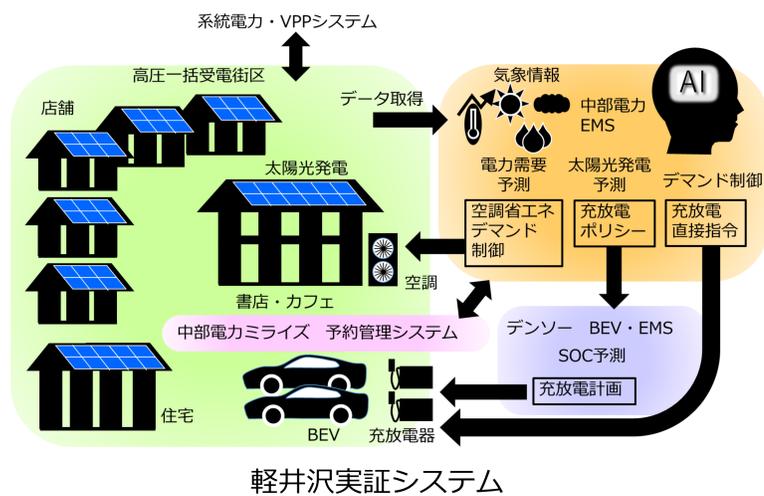
01 技術開発の背景・目的

- カーボンニュートラル実現やレジリエンス対応として、ビル、工場、商業施設、街区のお客さまから、太陽光発電・蓄電池・空調・BEV等を活用したエネルギーマネジメントへのニーズが高まっています。
- 未来に繋ぐSDGsなまちづくりのために、お客さまがスムーズに導入していただけるEMSやEVサービスの開発に取り組んでいます。



02 中電EMSの特長・用途

- 太陽光発電・蓄電池・空調・BEV充放電器等を組み合わせ統合制御することにより、カーボンニュートラルを実現します。
- 制御対象エリアの温湿度、CO₂、人流データ、空調機内蔵センサ等、様々なデータと連携することで、快適性と省エネ性を両立します。
- 蓄電池と負荷を組み合わせ精度のよいDR（デマンドレスポンス）に対応します。
- 自立運転時にはローカル自動制御にてレジリエンスに対応します。



03 社会実装に向けた取り組み

- 社会実装を目指して実証中のKaruizawa Commongrounds、そよら上飯田は、2025年3月に実証を終えて本格運用となる予定です。
- 実証で得た知見やお客さまの声を元に改良を重ね、事業会社や中電グループ会社とともに社会実装に向けたサービスデザインを行っていきます。

04 研究者より

- お客さまフィールドにおける実証は、快適性の維持など責任をもって対応する必要があり、緊張感をもって実施させていただいております。
- お客さまから貴重なご意見を頂戴する機会も多く、よりよいサービス開発に生かしていきたいと思っております。

中部電力(株)技術開発本部
先端技術応用研究所 EaaSグループ



グループ丸で
取り組んでいます!